

栗田工業株式会社

平成15年3月期中間決算説明会

平成14年度上期概要	・・・1～2
平成14年度上期業績	・・・3～5
平成14年度見通し	・・・6～8
セグメントごとの施策	・・・9～12
平成15年度以降に向けて	・・・13

平成14年11月7日



平成14年度上期概要

Nov. 7, 2002

厳しい経済環境の中、ほぼ計画通りの業績

< 市場環境 >

全般

国内景気は引き続き低迷

薬品部門

顧客からの値下げ要求継続

稼働率低迷により厳しさ継続

電子産業部門

国内IT産業の不況継続

海外（中国・台湾）で大型投資継続

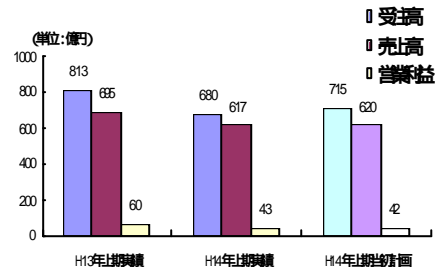
一般装置部門

設備投資は伸びは横ばい

環境施設部門

予算縮小により市場縮小

< 平成14年度中間期決算 >



平成14年度上期事業概況

薬品部門：

- ・ 契約型商品の拡大で稼働率低下と値引き分をカバー

電子産業部門：

- ・ 中国・台湾などアジアでの売上拡大
- ・ レディメイド化・購買単価の引下げなどにより収益性改善

一般産業部門：

- ・ 食品、医薬は堅調
- ・ 土壌浄化は市場拡大するものの競争激化

環境施設部門：

- ・ 自治体予算縮小の影響を受け、業績伸長せず

平成14年度上期業績 (PL)

	(単位：億円、%)		
	H13 年中間期 実績	H14 年中間期 実績	H14 年中間期 当初計画
受注高 (前年比増減率)	813 (0.3%)	680 (16.3%)	715 (12.0)
売上高 (前年比増減率)	695 (1.2%)	617 (11.2%)	620 (10.8)
(売上原価率)	(68.1%)	(68.0%)	(67.7%)
販売費・一般管理費	162	154	158
営業利益 (前年比増減率)	60 (14.5%)	43 (27.6%)	42 (29.9)
営業外収支	6	2	5
経常利益 (前年比増減率)	65 (12.3%)	46 (30.3%)	47 (28.2)
特別損失	16	7	6
税引前当期純利益 (前年比増減率)	49 (36.6%)	39 (20.7%)	41 (28.2%)
当期純利益 (前年比増減率)	28 (24.5%)	22 (23.3%)	24 (15.3)

平成14年度上期業績 (セグメント情報)

部門別売上高

		(単位:億円 %)		
		H13 年中間期 実績	H14 年中間期 実績	H14 年中間期 当初計画
薬品 (前年比)		247 (+ 5.3%)	238 (3.6%)	238 (3.6%)
装	民需	217 (+ 12.8%)	152 (29.9%)	167 (23.0%)
	官需	170 (+ 12.6%)	147 (13.7%)	161 (5.3%)
置	環境施設 (前年比)	178 (1.7%)	143 (19.8%)	149 (16.3%)
	計 (前年比)	565 (2.8%)	442 (21.7%)	477 (13.7%)
合 計 (前年比)		813 (0.3%)	680 (16.3%)	715 (11.9%)

部門別営業利益

		(単位:億円 %)		
		H13 年中間期 実績	H14 年中間期 実績	H14 年中間期 当初計画
薬品 (前年比)		37 (5.4%)	36 (1.7%)	37 (+ 7.3%)
装	民需	12 (36.8%)	11 (7.3%)	10 (16.7%)
	官需	8 (27.3%)	2 (77.8%)	1 (87.5%)
置	環境施設 (前年比)	3 (40.0%)	6 (-)	6 (-)
	計 (前年比)	23 (+ 18.1%)	7 (68.8%)	5 (78.3%)
合 計 (前年比)		60 (14.9)	43 (27.6%)	42 (30.0%)

部門別売上高

		(単位:億円 %)		
		H13 年中間期 実績	H14 年中間期 実績	H14 年中間期 当初計画
薬品 (前年比)		237 (+ 4.3%)	232 (2.0%)	235 (0.8%)
装	民需	198 (4.8%)	163 (16.6%)	166 (16.2%)
	官需	154 (6.1%)	143 (7.2%)	143 (7.7%)
置	環境施設 (前年比)	106 (+ 1.8%)	77 (27.1%)	76 (28.3%)
	計 (前年比)	458 (3.9%)	385 (15.9%)	385 (15.9%)
合 計 (前年比)		695 (1.2%)	617 (11.2%)	620 (10.8%)

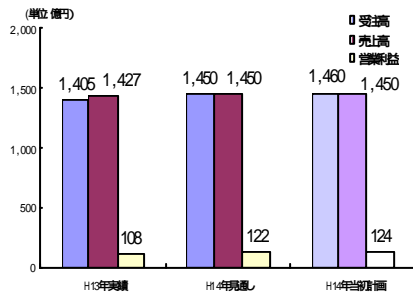
部門別営業利益率

		H13 年中間期 実績	H14 年中間期 実績	H14 年中間期 当初計画
薬品 (増減)		15.5%	15.5%	15.7%
装	民需	6.1%	6.7%	6.1%
	官需	5.0%	1.3%	1.0%
置	環境施設 (増減)	3.0%	7.5%	8.5%
	計 (増減)	5.0%	1.9%	1.3%
合 計 (増減)		8.6%	7.0%	6.8%

平成14年度上期財政状態 (BS)

	平成 13 年 9 月末	平成 14 年 3 月末	平成 14 年 9 月末
総資産 (億円)	1,739	1,721	1,716
株主資本 (億円)	1,205	1,226	1,234
株主資本比率 (%)	69.3%	71.2%	71.9%
1 株当たり株主資本 (円)	910.56 円	926.45 円	933.00 円

平成14年度見通し



< 市場環境 >

全般

国内景気は引き続き低迷

薬品部門

顧客からの値下げ要求継続

稼働率低迷により厳しさ継続

電子産業部門

下期より設備投資回復見込む

小規模案件の取り込みを続ける

一般装置部門

設備投資の伸びは横ばい

環境施設部門

予算縮小により市場縮小

平成14年度下期重点施策

事業推進力の強化

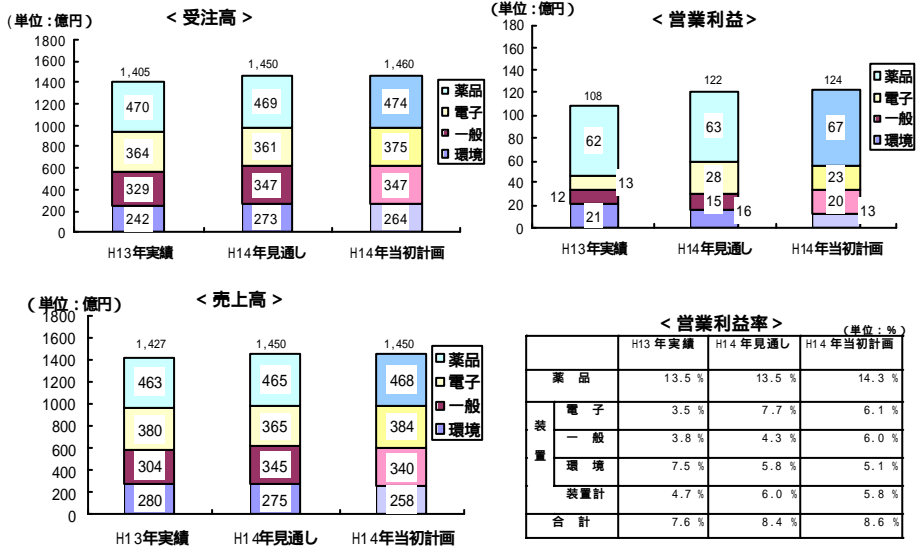
「売り方を変える、売るものを変える」

グループ力の強化

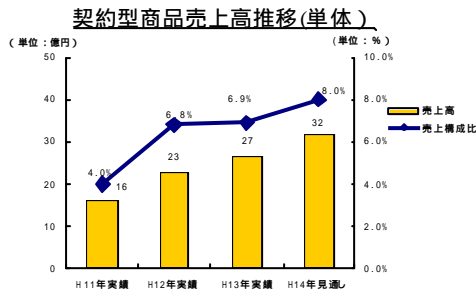
コストダウン

購買単価の引下げ、レディメイド化などによる製造コスト削減など

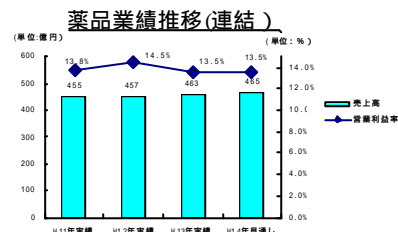
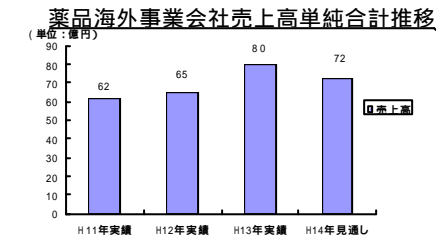
平成14年度セグメント別見通し



薬品セグメントの施策

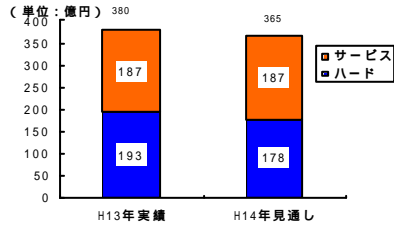


モノ売りからサービス提供へ
 契約型商品の拡大
 海外事業の拡大 (アジア中心)
 新規事業の拡大 (焼却炉関連
 薬品等)
 コストダウン



電子セグメントの施策

電子セグメント別売上高推移(連結)



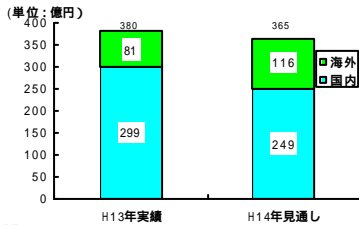
<ハード>

- 海外に注力
 - ・中国、台湾、韓国中心 (選別受注継続)
- 収益性改善
 - ・レディメイド化推進
 - ・原材料の購入単価見直し

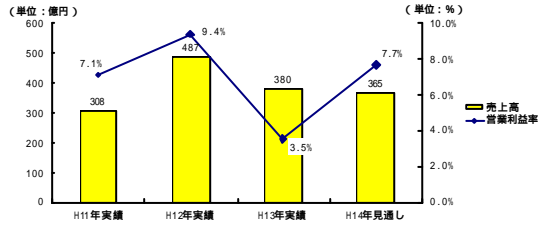
<サービス>

- メンテナンス
 - ・案件ごと受注 年間契約へ
 - ・メンテナンスのみ 運転管理・超純BOO
- 精密洗浄の着実な拡大
- 海外メンテナンス拡大

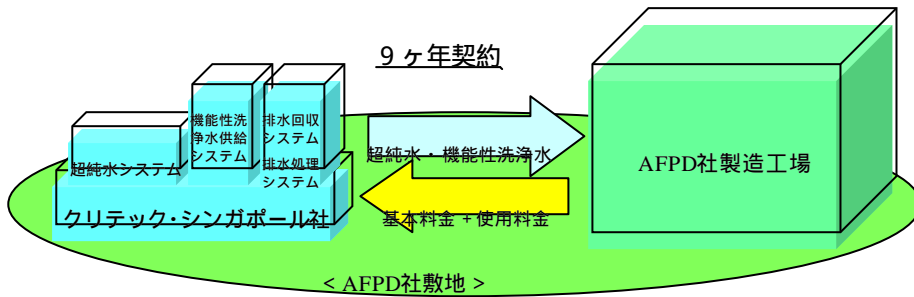
電子地域別売上高推移(連結)



電子セグメント業績推移(連結)



超純水売り事業概要 <クリテック・シンガポール社のケース>



- 4月 AFPD社に対し、水供給開始
- 7月 AFPD社試作品生産開始
- 11月 AFPD社竣工式

AFPD社 (アドバンスト・フラットパネルディスプレイ株式会社)
 (株)東芝と松下電器産業(株)の液晶部門が統合され発足した東芝松下ディスプレイテクノロジー(株)の海外生産拠点にあたる。2001年5月シンガポールに設立。

ランドソリューションの実績と見通し

(単位：億円)

	H14 年中間期 当初計画	H14 年中間期 実績	H14 年通期 見通し
受注高	9	11	20
売上高	9	8	21
経常利益	-1	+0	+0

順調に事業拡大。上期で黒字化

上期受注の内訳 調査164件、浄化7件、テニカカホートコンカ5件
ランドマネジメント内に「土壌汚染調査ファンド」設立
(9月18日記者発表)

ランドソリューション(株)は、今上期決算では連結対象外。

平成15年度以降に向けて

Post「EV-2計画」の概要

- ・次期中期経営計画：平成15年4月～平成18年3月
- ・現在、具体的内容について検討中
- ・来春発表予定

Post「EV-2計画」の方向性：

- サービス志向をさらに強める
- 「水売り」事業の着実な拡大
- 燃料電池事業・焼却炉解体事業等環境分野拡大
- 最適な連結グループ体制構築
- アジア中心の海外戦略構築
- アライアンスによる事業拡大